

日本一のブランド米をめざして

つや姫だより



第2号

令和元年5月20日

庄内総合支庁農業技術普及課

水管理の徹底で初期茎数の確保を

●乾土効果は「小さい」と見込まれます

本年の耕起盛期は4月24日とやや早かったものの、その後、曇りまたは雨の日が続き、平年に比べ土塊の乾燥はあまり進まず、乾土効果による土壌からの窒素供給は少ないと推定されます。

表1 年次別乾土効果

年次	本年	H30	H29	H28	H27	H26
乾土効果	小さい	平年並 ~やや小さい	小さい	平年並	大きい	大きい

(水田農業試験場調べ)

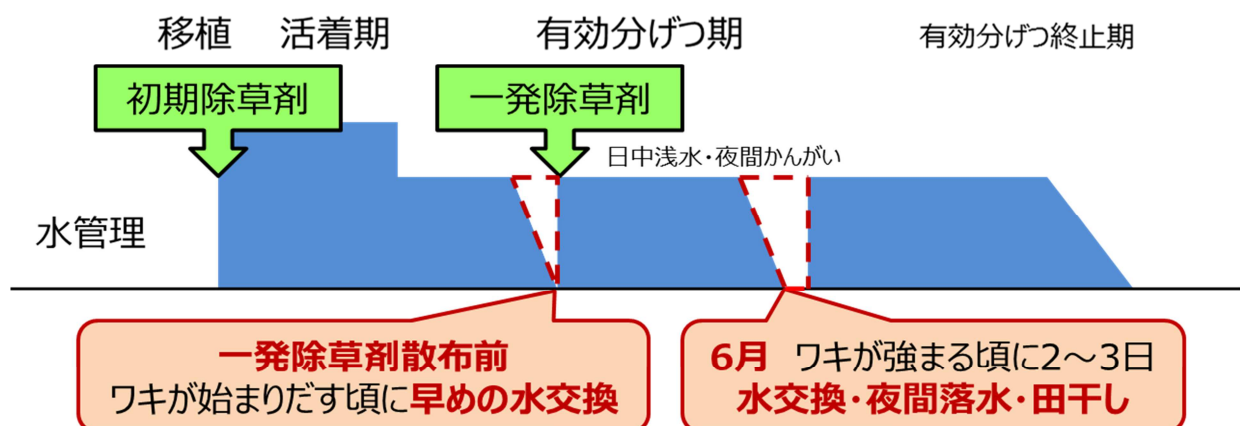
●活着後のこまめな水管理で初期生育を確保

活着が確認されたら、分けつの発生を促進するため、浅水管理(水深2~3cm)を行うとともに、昼間止水・夜間淹漑により生育促進を図りましょう。なお、強風や低温が続く時は、水深をやや深めにして稲体を保護しましょう。

●土壌還元(ワキ)対策

一発除草剤散布後は、7日間湛水状態を保つ必要があるため、その間に土壌のワキ(異常還元・ガス発生)が進んでしまいます。表層剥離やアオミドロによる除草剤の拡散ムラを防ぐためにも、一発除草剤散布前に水交換を行い、入水後に除草剤を散布しましょう。

その後、ワキの程度が強まる頃に、水交換・夜間落水・2~3日程度の田干しを実施しましょう。



<春季農作業事故防止運動強化期間 4/10~6/10>

STOP! 農作業事故 無理せずゆとりある作業を心がけましょう。